

第5章 魅力・元気・文化を誇れるまち 第6節 文化芸術・伝統文化

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)		
			会計	投入コスト		活動実績(R1)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)	
文化芸術振興課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	「所沢＝音楽のまち」というブランドを確立していくため、「音まち推奨制度」や「まちなかコンサート」その他イベント等に力を入れて取り組んではいるが、目的の達成に向け模索している部分も多いため。	R1年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを		
	最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	371千円	75千円	①「音まちコンサート」の実施 ②「まちなかコンサート」の実施	「音まち」推奨制度推奨数	市内で定期的、継続的に開催していて、営利を主目的とせず、広く市民を対象としている音楽行事を推奨することで、本市を市内外にアピールしてイメージアップをはかるため。また、R2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、前年比70%減とした。				ミュージアムによるアウトリーチ事業増加による「音まちコンサート」開催や、新所沢バルコでの複数回のまちなかコンサート開催など、出演者の発表の場、音楽を聴く場を提供した。			
	音楽のあるまちづくり推進事業	根拠法令	R1予算現額	R1決算額(見込み)			③	H30年度目標			H30実績			R1目標値が未達成の理由・分析
		文化芸術基本法	307千円	170千円	実績	100件	88件	R元年度は、所沢市の文化の殿堂である所沢市民文化センター・ミュージアムが大規模改修のため休館であり、多くの利用団体の活動が制限された。また、年度末には新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの開催を中止せざるを得なかったため。						
		事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	①3回 ②7回 ③	R元年度目標	R1実績							
	期間	平成25年度～	あらゆる世帯の市民や所沢市を訪れる方々に、音楽を演奏する機会、聴く機会を常に身近なものとして定着させ、豊かな音楽文化が持続的に発展できるよう取り組んでいく。プロ、アマを問わず市内音楽団体(個人)の活動を掌握し、情報発信や連携を支援し、音楽を通じた交流や音楽環境の活性化を図る。 ①「音まち」推奨制度・・・音楽情報サイトが独自に入手した情報等の中から、市が認定する制度。 ②「音まちコンサート」「まちなかコンサート」・・・「音まち」事業のPR、市民の気軽な鑑賞の場、発表の場として開催。 ③「音まちMAP」発行等、各種PR事業。	0.67人	非常勤特別職 0.00人	100件	61件	評価者			どのように貢献したか			音楽があふれる魅力あるまちを目指して事業を行い、本市のイメージアップに寄与した。
			5,615千円	0.05人	①3回 ②7回 ③	R2年度目標		文化芸術振興担当参事 吉田 謙治						
		R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合		30件									
		0.45人	非常勤特別職 0.00人											
		3,740千円	0.05人											
文化芸術振興課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	令和元年度は、改修のため休館しており、市民による施設の利用はなかったが、改修及び開館準備期間を通して、市、指定管理者、PFI事業者で緊密に連携することで、事故や遅延なく改修を終えることができた。	R1年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを		
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	447,356千円	446,189千円	①年間施設利用日数(日) ②年間施設利用回数(回) ③自主事業イベント観客入場率(%)	施設稼働率 ※年間利用回数÷年間利用可能回数(閉館日を除く)	所沢市民文化センターは、本市における文化芸術活動の拠点であり、指定管理者による自主事業及び市内外の一般利用に供しているため、施設稼働率を目標とする。				令和元年度は改修のため休館していたため、公民館や市内にある様々な施設に向けて文化事業を行うアウトリーチ事業を積極的に行った。また、ミュージアのホームページで改修の進捗を紹介するコンテンツを掲載したほか、広報紙にミュージアのリニューアルオープンについての記事を掲載するなど、周知に努めた。			
	市民文化センター管理運営事業	根拠法令	R1予算現額	R1決算額(見込み)			H30年度目標	H30実績			R1目標値が未達成の理由・分析			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み
		所沢市民文化センター条例、所沢市民文化センター条例施行規則	234,703千円	234,684千円	実績	65.0%	59.8%	令和元年度については、改修工事により休館していたため。						
		事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	①- ②- ③-	R元年度目標	R1実績							
	期間	平成5年度～	本市における文化芸術振興のため、所沢市民文化センターにおける事業運営と施設管理を行い、市民の芸術に触れ合う機会の増進と施設利用者の増加を促進する。また、施設の管理運営方法については、指定管理者制度を導入しており、指定管理者である公益財団法人所沢市民文化振興事業団が、管理協定に基づき、芸術・文化振興事業(自主事業)及び施設管理運営事業を遂行する。	0.57人	非常勤特別職 0.00人	-	-	評価者			どのように貢献したか			改修工事により施設の耐震化・バリアフリー化を図ることで、市民文化の発表拠点の整備に寄与した。
			4,777千円	0.00人		65.0%		文化芸術振興担当参事 吉田 謙治						
		R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合											
		0.32人	非常勤特別職 0.00人											
		2,660千円	0.00人											
文化芸術振興課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	本事業は実行委員会形式で地域に根差した各団体の協力により成り立っており、市民自らが企画し運営に携わり、所沢の文化を発信し所沢の文化の発展に寄与している。また、一般公募による音楽ステージや、中学生・高校生ボランティアも数多く参加しており、市民参加型である点においても意義がある。	R1年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを		
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	4,000千円	4,000千円	①実行委員、各催し物スタッフ人数 ②催事(プログラム)の合計数 ③	延べ入場者数	文化都市として発展していく第一歩として、所沢の文化をより多くの市民に知ってもらうことを目的としているため。				引き続き、経費の見直し・削減を図った。			
	市民文化フェア開催支援事業	根拠法令	R1予算現額	R1決算額(見込み)			H30年度目標	H30実績			R1目標値が未達成の理由・分析			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み
		文化芸術基本法、市民文化フェア実行委員会補助金交付要綱	4,000千円	4,000千円	実績	115,000人	150,000人	目標達成済						
		事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	①308 ②36 ③	R元年度目標	R1実績							
	期間	昭和61年度～	実行委員会による企画立案や市民の文化活動の発表交流の場の提供等を通して、新しい市民文化の創造を目指すと同時に、来場者に所沢ならではの有形・無形の市民文化や航空記念公園のロケーションの素晴らしさを体感してもらう。 ①毎年4月に航空記念公園を会場として開催する。②企画・運営は、個人・法人・市民団体の自主的な参加で組織する市民文化フェア実行委員会が行なう。③実行委員会の主な自主財源は、市内企業・商店等からの協賛広告料である。④市は実行委員会に補助金を交付する。	0.77人	非常勤特別職 0.00人	115,000人	200,000人	評価者			どのように貢献したか			「新しい生活様式」に合わせ、イベントのあり方、形式について検討していくとともに、部所管の他のイベントとの棲み分けや再構成を検討していく。
			6,453千円	0.05人		115,000人		文化芸術振興担当参事 吉田 謙治						
		R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合											
		0.67人	非常勤特別職 0.00人											
		5,569千円	0.05人											

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)				
			会計	投入コスト		活動実績(R1)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)			
文化芸術振興課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額		項目名	指標名		目標設定の考え方・根拠			A	指定管理者制度による効率的かつ安定した施設の運営により、多くの市民にご利用頂き、当初の想定を大きく超える稼働率を達成することができた。特にR元年度は期日前投票所として使用することが多かったが、調整を図ることで多くの市民の利用を実現できた。また、本市の文化芸術施策の一つの拠点である役割を果たすことができた。	R1年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを	
	最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	13,986千円	13,483千円		①年間施設利用日数(日) ②利用件数(団体・個人) ③	施設稼働率(%) (年間利用回数÷年間利用可能回数(閉館日を除く))		R元年度は国政選挙等による期日前投票所となったが、施設の管理運営を行う指定管理者及び利用団体と密に調整を図ることで、継続した利用につなげることができた。							
	根拠法令	所沢駅東口市民ギャラリー条例、所沢駅東口市民ギャラリー一条例施行規則	R1予算現額	R1決算額(見込み)			13,833千円	13,394千円		R元年度は国政選挙等による期日前投票所となったが、施設の管理運営を行う指定管理者及び利用団体と密に調整を図ることで、継続した利用につなげることができた。						
	事業の目的及び具体的な内容	所沢駅東口市民ギャラリーは、市民の文化芸術活動等の促進を図ることを目的とした施設であり、ギャラリーとして一般利用に供することを目的としている。	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合		実績	H30年度目標	H30実績		R1目標値が未達成の理由・分析						
	0.43人	非常勤特別職	0.00人		40.0%		74.6%		R1目標値が未達成の理由・分析							
	期間	平成29年度～	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合		①316日 ②52件 ③	R元年度目標	R1実績		事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み						
0.19人	非常勤特別職	0.00人		75.0%	88.0%		R元年度は国政選挙等による期日前投票所となったが、施設の管理運営を行う指定管理者及び利用団体と密に調整を図ることで、継続した利用につなげることができた。									
1,579千円	臨時職員	0.00人		50.0%			R元年度は国政選挙等による期日前投票所となったが、施設の管理運営を行う指定管理者及び利用団体と密に調整を図ることで、継続した利用につなげることができた。									
文化芸術振興課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額		項目名	指標名		目標設定の考え方・根拠			A	所沢市のアートの変遷を展望しようとする展覧会をR2年度に開催するために必要なキュレーター及びアドバイザーを選任し、事業の骨格部分を固める。R2年度：事業を開催する。	R1年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	0千円	0千円		①打合せ回数 ② ③	所沢アートの潮流展の開催		R元年度は国政選挙等による期日前投票所となったが、施設の管理運営を行う指定管理者及び利用団体と密に調整を図ることで、継続した利用につなげることができた。							
	根拠法令	文化芸術基本法	R1予算現額	R1決算額(見込み)			362千円	60千円		R元年度は国政選挙等による期日前投票所となったが、施設の管理運営を行う指定管理者及び利用団体と密に調整を図ることで、継続した利用につなげることができた。						
	事業の目的及び具体的な内容	令和2年の市民文化センター・ミュージアのリニューアルオープン後に、ザ・スクエア(展示室)をメイン会場とし、本市にゆかりのある作家による現代美術による展覧会を開催する。市民文化センターを管理運営している(公財)所沢市文化振興事業団と連携協力して、ザ・スクエアと併せて「情報市場」等の野外空間も活用し、屋内作品と野趣溢れる野外作品を対比させ、所沢の新たな魅力創出を図っていくものである。現在2名のキュレーター及び1名のアドバイザーの協力の下、開催に向けて準備を進めている。	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合		実績	H30年度目標	H30実績		R1目標値が未達成の理由・分析						
	0.00人	非常勤特別職	0.00人		-		-		R1目標値が未達成の理由・分析							
	期間	R1～	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合		①4回 ② ③	R元年度目標	R1実績		事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み						
0.97人	非常勤特別職	0.00人		開催準備	開催準備		R元年度は国政選挙等による期日前投票所となったが、施設の管理運営を行う指定管理者及び利用団体と密に調整を図ることで、継続した利用につなげることができた。									
8,063千円	臨時職員	0.00人		開催			R元年度は国政選挙等による期日前投票所となったが、施設の管理運営を行う指定管理者及び利用団体と密に調整を図ることで、継続した利用につなげることができた。									
文化財保護課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額		項目名	指標名		目標設定の考え方・根拠			B	クリアファイルの販売枚数は昨年に比べて減少しているが、引き続き事業開催時にグッズの出張販売を行うなど、パンフレットを積極的に配布し市民への文化財の普及啓発に努める。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに 11. 住み続けられるまちづくりを	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	676千円	674千円		①グッズの作成件数 ②グッズの有償頒布枚数 ③グッズの頒布金額	グッズの有償頒布枚数		グッズの頒布枚数が多いほど、文化財のPRと保護の普及が進むと考えられる。							
	根拠法令	文化財保護法、所沢市文化財保護条例	R1予算現額	R1決算額(見込み)			220千円	3,021千円		R元年度は国政選挙等による期日前投票所となったが、施設の管理運営を行う指定管理者及び利用団体と密に調整を図ることで、継続した利用につなげることができた。						
	事業の目的及び具体的な内容	文化財の保護・普及啓発を図り、市民文化の向上発展を図り、郷土理解及び郷土愛を高めることを目的としている。文化財マップや年1回の情報紙の発行、ホームページでの情報提供など多様な情報発信により、文化財に関する調査等の記録を多様なかたちで公表する。市の指定文化財を主題にしたグッズとして、これまでクリアファイル3種類を作成している。	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合		実績	H30年度目標	H30実績		R1目標値が未達成の理由・分析						
	0.57人	非常勤特別職	0.00人		200枚		263枚		R1目標値が未達成の理由・分析							
	期間	平成26年度～	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合		①0件 ②153枚 ③15,300円	R元年度目標	R1実績		事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み						
0.60人	非常勤特別職	0.00人		販売開始から時間が経過し、文化財に関心のある市民にはグッズが行き渡ってきていると思われる。	153枚		R元年度は国政選挙等による期日前投票所となったが、施設の管理運営を行う指定管理者及び利用団体と密に調整を図ることで、継続した利用につなげることができた。									
4,987千円	臨時職員	0.7人		150枚			R元年度は国政選挙等による期日前投票所となったが、施設の管理運営を行う指定管理者及び利用団体と密に調整を図ることで、継続した利用につなげることができた。									

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)		
			会計	投入コスト		活動実績(R1)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)	
文化財保護課	実施計画ランク		H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名		目標設定の考え方・根拠		A	令和元年度の確認調査件数は前年度に比べて増加傾向にある。発掘調査担当職員は、現場において遺構や遺物を観察し、調査方法を検討・指導するなど専門的な知識と経験を要する。今後は専門的職員の育成と確保、確認調査や発掘調査スケジュールの適正な配分をはかる必要がある。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	28,469千円	23,286千円	①確認調査実施件数	確認調査依頼件数に対する確認調査実施件数		開発等により遺跡が破壊される前に確認調査によって遺構の有無を判断し、本調査で迅速かつ正確に遺跡に関する記録を行うことが当事業の目的となっているため、確認調査の実施率を指標とし達成率100%を目標値とした。				民間開発と土地区画整理事業の発掘調査や確認調査を同時に実施する状況となり、担当職員の不足を補うため、県教委の指導のもと、事業者が調査費の全額負担を了承した調査において民間発掘調査会社の支援を2件導入した。		
	根拠法令	文化財保護法・埼玉県文化財保護条例・所沢市文化財保護条例	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②発掘調査実施件数	発掘調査実施面積		R1目標値が未達成の理由・分析				事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み		
	事業の目的及び具体的な内容	開発等により遺跡が破壊される前に、記録保存を行い、後世へ伝えることを目的とする。埋蔵文化財包蔵地(遺跡)内で開発等が計画された段階で確認調査を実施する。その結果、遺構が発見され、開発等により破壊される可能性がある場合には発掘調査を実施する。発掘調査は、正職員と臨時職員等で調査の規模・期間・難易度により適宜チームを編成して行う。	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	H30年度目標	H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析				どのよう貢献したか		
	期間	S51年度～	1.82人	非常勤特別職 0.30人	①81件	100.0%	9100.0%	R1目標値が未達成の理由・分析				文化財保護が文化遺産保全及び文化的多様性の維持に貢献している。		
			15,252千円	臨時職員 16.80人	②7件	R元年度目標	R1実績	R1目標値が未達成の理由・分析						
			R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	③3316.72㎡	100.0%	100.0%	R1目標値が未達成の理由・分析						
			1.29人	非常勤特別職 1.00人		R2年度目標		R1目標値が未達成の理由・分析						
			10,722千円	臨時職員 2.30人		100.0%		R1目標値が未達成の理由・分析						
								R1目標値が未達成の理由・分析						
文化財保護課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名		目標設定の考え方・根拠		B	令和元年度は、報告書に記載予定だった件数を纏めることができなかったことから、目標実績を達成できなかったものの、平成30年度よりは、件数を増加させることができた。今後は、発掘調査担当職員のスキルをあげながら着実かつ効率的に刊行していけるようにしたい。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	10,991千円	9,089千円	①年報掲載の確認・発掘調査数	発掘調査報告書刊行調査回数		記録した遺跡の情報を報告書として刊行し公開することが目的であるため、報告書を刊行した発掘調査回数を指標とし、報告書刊行済の調査報告回数に、現年度刊行予定の報告書掲載発掘調査回数を加えたものを目標値とした。				報告書の報告内容などを検討し、掲載遺物の選別、表等の活用により、ページ数をやや減らすことにより、効率的に業務を進めることが出来た。		
	根拠法令	文化財保護法・埼玉県文化財保護条例・所沢市文化財保護条例	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②報告書を刊行した発掘調査件数	発掘調査報告書刊行調査回数		R1目標値が未達成の理由・分析				事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み		
	事業の目的及び具体的な内容	報告書の刊行により発掘調査の成果を公開することで、市民はじめ歴史及び郷土研究への貢献を目的とする。また、年報の刊行により発掘調査や確認調査の成果をいち早く公開することで、市民や開発事業者等に所沢市の地中に刻まれた貴重な文化遺産を周知し、文化財保護意識を啓発することで、開発計画など遺跡の破壊を未然に防止する効果も期待できる。	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	H30年度目標	H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析				どのよう貢献したか		
	期間	S51年度～	0.30人	非常勤特別職 0.25人	①87件	338件	336件	R1目標値が未達成の理由・分析				発掘調査報告書の刊行は、文化遺産保全及び文化的多様性の維持に貢献している。		
			2,514千円	臨時職員 5.54人	②19件	R元年度目標	R1実績	R1目標値が未達成の理由・分析						
			R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合		366件	355件	R1目標値が未達成の理由・分析						
			0.50人	非常勤特別職 0.25人		R2年度目標		R1目標値が未達成の理由・分析						
			4,156千円	臨時職員 5.54人		360件		R1目標値が未達成の理由・分析						
								R1目標値が未達成の理由・分析						
文化財保護課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名		目標設定の考え方・根拠		A	埋蔵文化財は市の貴重な歴史資料であり、市民共有の財産として将来にわたって保存する意義を理解してもらうためにも、通常の来館者のみならず、出張授業や体験学習及び職員の講師派遣などの事業を通じて、より多くの市民等へ情報発信を行う。「ところざわ埋文まつり」では企画・募集等を工夫して実施した。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	2,341千円	2,294千円	①小中学校対象(学校との連携)事業の参加者数	文化財公開活用事業への参加者数		郷土の歴史や埋蔵文化財行政を周知することが当事業の目的であるため、市民の関心や理解度を図る数値として公開活用活動参加者数を指標とする。				普及公開活動の周知のために、通常の来館者のみならず、出張授業や体験学習及び職員の講師派遣などの事業を通じて、より多くの市民等へ情報発信を行う。「ところざわ埋文まつり」では企画・募集等を工夫して実施した。		
	根拠法令	文化財保護法・所沢市文化財保護条例	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②見学者・事業参加者等の人数	文化財公開活用事業への参加者数		R1目標値が未達成の理由・分析				事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み		
	事業の目的及び具体的な内容	郷土の歴史や埋蔵文化財保護について普及公開するため、次のような事業を実施する。①小中学校を対象とした来館授業・体験学習・出張授業等 ②施設見学 ③体験型イベント「ところざわ埋文まつり」の開催(土器や勾玉作り・火起こし等の体験) ④最新発掘展示 ⑤外部公共施設等への資料貸出・展示	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	H30年度目標	H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析				どのよう貢献したか		
	期間	平成6年度～	0.30人	非常勤特別職 0.40人	①958人	8600人	7458人	R1目標値が未達成の理由・分析				埋蔵文化財の普及公開は、文化遺産保全及び文化的多様性の維持に貢献している。		
			2,514千円	臨時職員 0.07人	②5046人	R元年度目標	R1実績	R1目標値が未達成の理由・分析						
			R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	③580人	8600人	6584人	R1目標値が未達成の理由・分析						
			0.46人	非常勤特別職 0.40人		R2年度目標		R1目標値が未達成の理由・分析						
			3,824千円	臨時職員 0.07人		8600人		R1目標値が未達成の理由・分析						
								R1目標値が未達成の理由・分析						

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)	
			会計	投入コスト		活動実績(R1)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)
文化財保護課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	埋蔵文化財発掘調査は現場での調査で終了ではなく、出土した遺物類を整理・記録し、公開することが求められる。そのため、整理作業の専門知識や経験を有する職員の育成、確保が必要である。令和元年度は成果指標に掲げた目標を達成することができた。今後においても、どの調査でも整理ができるように職員のスキルアップや業務の迅速化など作業の進捗率の向上に継続して努めていく。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	11,910千円	11,666千円	①整理作業遺跡件数	発掘調査報告書刊行調査回数	発掘調査報告書刊行調査回数	発掘調査報告書刊行調査回数					
	根拠法令	文化財保護法・埼玉県文化財保護条例・所沢市文化財保護条例	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②整理作業遺構件数								
	事業の目的及び具体的な内容	事業の目的及び具体的な内容	12,185千円	11,255千円	③出土遺物の保存処理・化学分析	H30年度目標	H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析					
	遺跡から出土した遺物の整理作業や保存処理を行い、発掘調査報告書に掲載するとともに、実物資料として後世に伝えていくため、次のような作業を行う。 ①遺物の水洗 ②注記 ③接合 ④復元 ⑤着色 ⑥報告書掲載遺物の選出 ⑦実測 ⑧拓本 ⑨保存処理 ⑩科学分析 等	遺跡から出土した遺物の整理作業や保存処理を行い、発掘調査報告書に掲載するとともに、実物資料として後世に伝えていくため、次のような作業を行う。 ①遺物の水洗 ②注記 ③接合 ④復元 ⑤着色 ⑥報告書掲載遺物の選出 ⑦実測 ⑧拓本 ⑨保存処理 ⑩科学分析 等	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	R元年度目標	R1実績	R1目標値が未達成の理由・分析					
	期間	S50年度～	0.23人	非常勤特別職 0.90人	①22件	338件	336件	目標達成済					
		1,927千円	臨時職員 7.02人	②162件	R2年度目標	R1実績	目標達成済						
		R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	③8点	342件	355件	目標達成済						
		0.28人	非常勤特別職 0.90人		R2年度目標		目標達成済						
		2,327千円	臨時職員 7.02人		368件		目標達成済						
文化財保護課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	令和元年度は、本廓と馬出の間に構造物があった可能性を示す調査結果を得ることができた。現地説明会を開催し、埼玉新聞にも採り上げられ一定の成果をあげることができた。今後、発掘調査の成果を整理し、不足区部分を見極め、将来の整備に向け着実に準備を進めていく。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	4,430千円	4,269千円	①復元模型の見学者数	保存会会員数+現地見学者数(団体見学のみ)+現地説明会参加者数	保存会会員数+現地見学者数(団体見学のみ)+現地説明会参加者数	保存会会員数+現地見学者数(団体見学のみ)+現地説明会参加者数					
	根拠法令	文化財保護法・埼玉県文化財保護条例・所沢市文化財保護条例	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②史跡整備に伴う発掘調査延べ面積								
	事業の目的及び具体的な内容	事業の目的及び具体的な内容	4,357千円	4,315千円	③現地説明会参加者数	H30年度目標	H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析					
	目的:中世城跡の本質的な価値を見出し、計画性のある長期的な整備を進める事により、郷土の貴重な文化財である「滝の城跡」を後世へ護り伝えていく。 内容:①保存管理計画の策定 ②史跡指定地内の遺構確認 ③危険箇所の応急的な修繕 ④中世城跡として適切な保存整備 ⑤整備基本計画に基づいた史跡整備	目的:中世城跡の本質的な価値を見出し、計画性のある長期的な整備を進める事により、郷土の貴重な文化財である「滝の城跡」を後世へ護り伝えていく。 内容:①保存管理計画の策定 ②史跡指定地内の遺構確認 ③危険箇所の応急的な修繕 ④中世城跡として適切な保存整備 ⑤整備基本計画に基づいた史跡整備	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	R元年度目標	R1実績	R1目標値が未達成の理由・分析					
	期間	平成19年度～	0.52人	非常勤特別職 0.00人	①476人	400人	227人	令和元年度の第8次発掘調査は、本廓と馬出の間の内堀を中心として調査を行ったが、調査面積が広くないことから、大勢の見学者が入れないと判断し、周辺住民への説明を主眼とし、広報を地域回覧とホームページのみにした現地説明会であったため、参加者が少なかったことによる。					
		4,358千円	臨時職員 12.00人	②4,142㎡	R2年度目標	R1実績	令和元年度の第8次発掘調査は、本廓と馬出の間の内堀を中心として調査を行ったが、調査面積が広くないことから、大勢の見学者が入れないと判断し、周辺住民への説明を主眼とし、広報を地域回覧とホームページのみにした現地説明会であったため、参加者が少なかったことによる。						
		R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	③120人	400人	255人	令和元年度の第8次発掘調査は、本廓と馬出の間の内堀を中心として調査を行ったが、調査面積が広くないことから、大勢の見学者が入れないと判断し、周辺住民への説明を主眼とし、広報を地域回覧とホームページのみにした現地説明会であったため、参加者が少なかったことによる。						
		0.69人	非常勤特別職 0.00人		R2年度目標		令和元年度の第8次発掘調査は、本廓と馬出の間の内堀を中心として調査を行ったが、調査面積が広くないことから、大勢の見学者が入れないと判断し、周辺住民への説明を主眼とし、広報を地域回覧とホームページのみにした現地説明会であったため、参加者が少なかったことによる。						
		5,735千円	臨時職員 12.00人		50人		令和元年度の第8次発掘調査は、本廓と馬出の間の内堀を中心として調査を行ったが、調査面積が広くないことから、大勢の見学者が入れないと判断し、周辺住民への説明を主眼とし、広報を地域回覧とホームページのみにした現地説明会であったため、参加者が少なかったことによる。						
文化財保護課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	令和元年度は文化財展の開催年ではなかったことから、建造物以外の文化財の公開の機会はまだ設けることができなかったが、「小野家住宅のなつやすみ」は参加者が少し増加した。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	3,419千円	2,538千円	①所沢市web文化財保護課所管コンテンツ年間アクセス総数	文化財に関する市民理解度(文化財保護課所管の施設の見学及び主催事業への参加者数)	文化財に関する市民理解度(文化財保護課所管の施設の見学及び主催事業への参加者数)	文化財に関する市民理解度(文化財保護課所管の施設の見学及び主催事業への参加者数)					
	根拠法令	文化財保護法、所沢市文化財保護条例	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②所沢市web文化財保護課所管コンテンツ月別最多掲載数								
	事業の目的及び具体的な内容	事業の目的及び具体的な内容	2,187千円	1,861千円	③公開活用事業数	H30年度目標	H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析					
	多くの市民に文化財の大切さを伝え、「ふるさと所沢」への愛着を深めるとともに、文化財を後世に残す意義を浸透させていく。 ①指定文化財等の市民への情報公開(市webでの情報発信)②指定文化財等の保存公開に必要な管理(史跡の除草作業等の実施や所有者との連絡)③指定文化財等の公開活用事業の開催(展示・特別公開・講座や講演会等)	多くの市民に文化財の大切さを伝え、「ふるさと所沢」への愛着を深めるとともに、文化財を後世に残す意義を浸透させていく。 ①指定文化財等の市民への情報公開(市webでの情報発信)②指定文化財等の保存公開に必要な管理(史跡の除草作業等の実施や所有者との連絡)③指定文化財等の公開活用事業の開催(展示・特別公開・講座や講演会等)	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	R元年度目標	R1実績	R1目標値が未達成の理由・分析					
	期間	平成18年度～	1.43人	非常勤特別職 0.00人	①489,715件	8700人	8729人	H30開催した「文化財展」に比べて、R1の事業の開催日数が少なくなったことや、民俗資料館の見学者数が減少したため。					
		11,983千円	臨時職員 0.05人	②282件	R2年度目標	R1実績	H30開催した「文化財展」に比べて、R1の事業の開催日数が少なくなったことや、民俗資料館の見学者数が減少したため。						
		R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	③16件	8700人	7614人	H30開催した「文化財展」に比べて、R1の事業の開催日数が少なくなったことや、民俗資料館の見学者数が減少したため。						
		0.86人	非常勤特別職 0.00人		R2年度目標		H30開催した「文化財展」に比べて、R1の事業の開催日数が少なくなったことや、民俗資料館の見学者数が減少したため。						
		7,148千円	臨時職員 0.05人		8700人		H30開催した「文化財展」に比べて、R1の事業の開催日数が少なくなったことや、民俗資料館の見学者数が減少したため。						

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)						
			会計	投入コスト		活動実績(R1)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)					
文化財保護課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	ミヤコタナゴ飼育研究員の尽力や課職員の協力により、人工増殖の目標数を達成することができた。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)					
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	2,753千円	2,715千円	①前年度末個体数	埋蔵文化財調査センターにおいて人工増殖により増加した個体数	ミヤコタナゴの種の保存のため、飼育総数個体3,000~3,500を目標としていることから、当該年度の人工増殖数を指標とした。				職員全員で、休日に人工増殖における稚魚の飼育を行い生存率を向上させた。また、水槽の清掃を丁寧に実施することや、温度管理の徹底により、年間死亡数を40%程減少させた。							
	根拠法令	文化財保護法、所沢市文化財保護条例、絶滅のおそれのある希少野生動物種の保存に関する法律	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②前年度死亡数		H30年度目標	H30実績			R1目標値が未達成の理由・分析			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み				
	事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	③体験学習受入れ件数	700尾		548尾	R1目標値が未達成の理由・分析			今後も人工増殖と上山口増殖実験池での二枚貝を用いた自然繁殖の両方を行い、個体数の維持に努めていく。特に、産卵母貝である二枚貝の飼育・繁殖について、記念物担当の文化財保護委員に指導を仰ぎながら検討を重ね、保存会・埼玉県、所管部署とも連携していく。							
	目的: 絶滅危惧種で国指定天然記念物のミヤコタナゴを保護し、将来の野生復帰を目指して種の保存の取り組みを推進するとともに環境学習等の教材として活用を図る。内容: ①人工増殖により種の保存に必要な個体数を維持する。また、埋文センター以外での飼育により危険回避をする。②市内小学校等に展示飼育し、天然記念物の保護啓発と環境学習等に役立てる。③中学校の体験学習に飼育体験を行い保護啓発に努める。	非常勤特別職	1.00人	実績	①3,707	R元年度目標	R1実績				どのように貢献したか							
	期間	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	②771	1000尾	1727尾	目標達成済				ミヤコタナゴの保護は、文化遺産保全及び文化的多様性の維持に貢献している。							
	平成8年度~	0.88人	非常勤特別職	1.00人	R2年度目標	1500尾												
		7,315千円	臨時職員	0.05人	③4件			文化財保護担当 肥沼 位昌										
	文化財保護課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠			B			披露日数は少ないが、重松流祭囃子保存会と協力し、内容の濃い指定50年記念事業(2日間)を開催することができた。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)	
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	0千円	0千円	①伝統芸能発表会の鑑賞者数(出演者+来場者数)	郷土の民俗芸能の披露日数	市内に伝承されている民俗芸能の市民への周知と継承、その保存団体の存続と発展を目的としているため、披露される日数を指標としている。							指定50年を迎えた無形民俗文化財について、重松流祭囃子保存会と協力して事業を行い、野老澤町造商店、重松流祭囃子保存会との共催により「重松流ってな〜」を開催した。また岩崎熊獅子舞のPRをまちづくりセンターでも行った。			
根拠法令		文化財保護法、所沢市文化財保護条例	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②重松流祭囃子保存会の活動参加者数(重松流祭囃子競技会の出演者+来場者数)	H30年度目標		H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析	事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み								
事業の目的及び具体的な内容		H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	③岩崎熊獅子舞保存会の活動参加者数(奉納岩崎熊獅子舞の出演者+来場者数)	15日	9日		R1目標値が未達成の理由・分析	令和2年度開催予定の第14回「所沢市伝統芸能発表会」の準備を進めるとともに、民俗芸能を広く市民へ周知し、保存団体への継続的な支援と後継者育成を図っていく。									
市内に伝承されている民俗芸能を広く市民に周知し、その技能や道具類を後世へ護り伝え、郷土の民俗芸能を継承する保存団体の存続と発展を目指す。①伝統芸能発表会の開催(隔年)②郷土の民俗芸能を継承する保存団体の自主的な活動を支援		非常勤特別職	0.00人	実績	①0人	R元年度目標	R1実績		どのように貢献したか									
期間		R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	②500人	15日	9日	伝統芸能発表会の開催年でなかったことや、ところざわまつりが台風で中止になったため。		民俗芸能の保存団体を支援することで、文化遺産保全及び文化的多様性の維持に貢献している。									
平成5年度~		0.58人	非常勤特別職	0.00人	R2年度目標	10日												
		4,821千円	臨時職員	0.05人	③200人			文化財保護担当 肥沼位昌										
文化財保護課		実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		C		市の財政状況などもあり、復元には解決すべき課題が山積しているが、所沢の町場の景観を伝える貴重な文化財を将来最大限に活用するため、引き続き適正な状態で保存するよう努めている。	R1年度に改善した点		4. 質の高い教育をみんなに			実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	305千円	580千円	①保管環境の整備	歴史的建造物(保管部材)の復元	保存している部材を活用するため3棟分の復元を目標とする。					くん蒸を実施したほか、保管庫内の樹木の伐採を行い、落ち葉が近隣へ落ちないようにするとともに、剪定作業を委託しないことで経費の節減に努めた。					
	根拠法令	文化財保護法、所沢市文化財保護条例	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②くん蒸処理	H30年度目標		H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析		事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み							
	事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	3棟	0棟		R1目標値が未達成の理由・分析	どのように貢献したか									
	盛期の所沢の町場の景観を伝える貴重な文化財であり、町場の暮らしを復元できる素材として郷土学習やまちづくりに活用する。①解体した部材の適正な保存管理(殺虫・殺卵のための燻蒸処理)②保管環境の整備(保管庫の清掃・風通し、敷地内の除草・落ち葉掃き・枝打ちなど)③歴史的建造物(保管部材)の復元・活用計画の策定④歴史的建造物(保管部材)の復元と活用	非常勤特別職	0.00人	①10回	R元年度目標	R1実績	工事費用及び復元する敷地も必要ことから庁内外の調整、課題の整理等を要するため。		歴史的建造物を将来に遺すことは、文化遺産保全及び文化的多様性の維持に貢献するものである									
	期間	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	②1回	3棟	0棟												
	平成16年度~	0.15人	非常勤特別職	0.00人	R2年度目標													
		1,247千円	臨時職員	0.00人		3棟		文化財保護担当 肥沼位昌										

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)			
			会計	投入コスト		活動実績(R1)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)		
文化財保護課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名		目標設定の考え方・根拠		A	目標達成に向けてある程度成果は出ているが、目標をやや下回っている。単に件数の目標値だけでなく、適正な執行を通して文化財の保護に努める必要がある。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	2,706千円	2,180千円											
	指定文化財管理費等補助事業	根拠法令	所沢市文化財保護条例、所沢市文化財等保存事業費補助金等交付要綱	R1予算現額	R1決算額(見込み)	①管理費補助件数	補助金を交付した件数					R1年度に改善した点 修理費補助金を1件交付した。			
		事業の目的及び具体的な内容	事業の目的及び具体的な内容	2,706千円	2,371千円	②修理等補助件数									
		目的:市内に所在する貴重な文化財を良好な状態で保存・管理しこれを後世に継承する。 内容 ①市指定文化財の所有(管理)者から補助金交付申請書提出 ②文化財等保存事業費補助金等交付要綱に基づき交付決定 ③請求書を受け補助金交付 ④年度末に実績報告を受ける	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	H30年度目標	H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析							
		0.24人	非常勤特別職 0.00人		70件	60件									
	期間	昭和56年度~	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	①62件			当年度の管理費補助金が不要につき辞退した件があったため。							
	0.22人	非常勤特別職 0.00人		70件	63件										
	1,829千円	臨時職員 0.05人		70件											
	2,011千円	臨時職員 0.05人													
事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み															
市民共有の財産というべき貴重な文化財を適正に管理や修繕ができるように、財産状況や所有(管理)者の意見などを考慮しながら、より効率的・効果的な事業の実施を検討していく。															
評価者	文化財保護担当 肥沼位昌														
どのように貢献したか															
指定文化財管理費補助金等の交付は、文化遺産保全及び文化的多様性の維持に貢献している。															
文化財保護課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名		目標設定の考え方・根拠		B	民俗資料を地域で保存・管理し後世へ護り伝えるための施設として、引き続きPRしていくとともに、小中学校の郷土学習等の活用の充実に努める。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	3,164千円	3,001千円											
	中富・柳瀬・山口民俗資料館管理運営事業	根拠法令	所沢市民俗資料館条例、所沢市民俗資料館条例施行規則	R1予算現額	R1決算額(見込み)	①開館日数	来館者数					R1年度に改善した点 スタンプラリーを実施し、来館者の増加に努めた。配置替えやキャプションの修正を加えた。柳瀬民俗資料館のフェンス修繕を行った。			
		事業の目的及び具体的な内容	事業の目的及び具体的な内容	3,575千円	3,304千円	②来館小中学校数									
		地域ごとの民俗資料の保存と市民への公開を目的とする。 ①中富・柳瀬・山口民俗資料館の開館業務 開館日:各館月4日 開館時間:午前9時~午後4時30分 入館料:無料 ②各館で地域の特色が見られる民具等を展示 ③小中学校の社会科見学や総合学習として活用されている	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	H30年度目標	H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析							
		0.62人	非常勤特別職 0.00人		1900人	1909人									
	期間	昭和56年度~	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	①143日			小中学校も含め、団体での来館者が減ったため。							
	0.55人	非常勤特別職 0.00人		1900人	1665人										
	4,572千円	臨時職員 1.05人		1900人											
	5,196千円	臨時職員 1.05人													
事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み															
地元の民俗資料保存会の協力を得ながら、資料整理や学校・団体の見学対応に力を入れ、来館者が増加するよう努める。															
評価者	文化財保護担当 肥沼位昌														
どのように貢献したか															
市民が民俗資料を学び郷土を知ることは、文化遺産保全及び文化的多様性の維持に貢献している															
文化財保護課	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名		目標設定の考え方・根拠		B	施設建築から26年が経過し、老朽化が進み施設内の各所で不具合が生じているが、所沢市の財政状況を考えると、全ての修繕を同時期におこなうのは、不可能と思われることから、優先順位を吟味し順次修繕をおこなう必要がある。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	8,522千円	7,206千円											
	埋蔵文化財調査センター施設管理事業	根拠法令	文化財保護法・埼玉県文化財保護条例・所沢市文化財保護条例	R1予算現額	R1決算額(見込み)	①利用者数	年間の施設修繕件数					R1年度に改善した点 浄化槽内放流ポンプ槽フロートスイッチ修繕と浄化槽散気バルブ交換修繕をおこなうことができたので、浄化槽に雨水が入っても汚水と雨水の混じった水が道路に溢れ出る心配がなくなった。			
		事業の目的及び具体的な内容	事業の目的及び具体的な内容	8,447千円	7,676千円	②年間開館日数									
		来館者等の安全管理とともに、発掘調査による出土遺物など収蔵資料を永年にわたって整理・保存し、埋蔵文化財に関する各種情報を後世に伝えるとともに広く提供する施設として、安全かつ適正に管理するために、施設管理業務委託等による各種点検を着実に実施し、修繕箇所を見極めて必要な修繕を実施する。	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	H30年度目標	H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析							
		0.80人	非常勤特別職 0.05人		5件	3件									
	期間	平成6年度~	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	①5,015人			目標達成済							
	6,704千円	臨時職員 0.00人		6件	6件										
	6,234千円	臨時職員 0.00人		5件											
	6,704千円	臨時職員 0.00人													
事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み															
新型コロナウイルス感染防止対応として、館内の換気を行わなければならないが、館内の空調設備が経年の老朽化により不具合が発生している。令和2年度に一部を修繕するが、根本的な解決に至らない可能性がある。しかし、抜本的な修繕には多額の予算が必要となるため、応急的な修繕で延命化を図る必要がある。															
評価者	文化財保護担当 肥沼位昌														
どのように貢献したか															
埋蔵文化財のための施設管理は、文化遺産保全及び文化的多様性の維持に貢献している															

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)							
			会計	投入コスト		活動実績(R1)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)						
生涯学習推進センター	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	前年度よりは数値が改善したが、約80%の達成率にとどまった。今後は事業内容の検討を行い、より多くの市民に三ヶ島餃子を知っていただけるよう努めていく。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに							
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	198千円	231千円	①資料室入場記名者数	利用者数(資料室、講演会等来場者数と冊子購入者延べ人数)	市民へ三ヶ島餃子を周知することを目的としているため、利用者数(資料室、講演会等来場者数と冊子購入者延べ人数)を指標とした。	R1目標値が未達成の理由・分析			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み								
	根拠法令	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②講演会等来場者数						H30年度目標			H30実績	どのよう貢献したか				
	社会教育法、文化芸術基本法	192千円	122千円	③冊子販売数	R元年度目標						R1実績			三ヶ島餃子を多くの市民へ周知していくことが課題である。市民ボランティアによる展示解説、講演会、文学散歩等の実施方法を再検討し、さらなる周知を図っていく。					
	三ヶ島餃子資料室運営事業	事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	600人	228人	R2年度目標			R2実績			生涯学習推進センター 酒井 忠夫	郷土の歌人・三ヶ島餃子資料室を運営することで、市民に学習機会を提供している。				
	期間	郷土出身の歌人・三ヶ島餃子を広く伝え、市民が先人への理解を深めるとともに、ふるさと所沢を愛する心を育てることを目的とし、講演会や文学散歩の開催、三ヶ島餃子資料室だより「われもこう」の発行、市民ボランティアによる展示解説会等を行う。	0.65人	非常勤特別職 0.00人												①379人	R元年度目標	R1実績	
	H6～		5,447千円	臨時職員 0.00人												②50人	600人	481人	
		R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	③52冊	600人														
		0.37人	非常勤特別職 0.00人		R2年度目標														
		3,075千円	臨時職員 0.00人		600人														
生涯学習推進センター	実施計画ランク	事業の種類別	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		C	市民学芸員(ボランティア)の協力により、企画展示や小学生の体験学習などの事業を実施することができた。しかしながら、令和元年度単年度事業で実施した資料整理事業等の影響で、企画事業の開催数が例年より少なかったこともあり、目標を達成することができなかった。今後、ふるさと研究活動に参加する市民の裾野を広げられるような事業の企画に努めていく。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに							
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	8,077千円	7,526千円	①参加・利用者数	展示見学者・講座参加者・閲覧学習室利用者の延べ人数。	ふるさと研究活動の周知と市民参加が目的のひとつであるため、参加者・利用者数を指標とした。	R1目標値が未達成の理由・分析			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み								
	根拠法令	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②企画事業開催数						H30年度目標			H30実績	どのよう貢献したか				
	社会教育法、博物館法、文化財保護法	8,071千円	7,260千円	③事業に協力した市民学芸員の延べ人数	R元年度目標						R1実績			より多くの市民にふるさと研究活動への興味をもたせ、各事業への参加を促すため、企画展示や体験学習会、講座の内容をさらに充実させるとともに、事業の周知に努めていく。					
	ふるさとと研究活動事業	事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	6,000人	6,091人	R2年度目標			R2実績			生涯学習推進センター 酒井 忠夫	展示事業や講座を実施することで、市民に学習機会を提供している。				
	期間	所沢市の歴史や自然、文化などの資料の収集、保存、調査、研究を進め、常設展示や企画展示、講座、体験学習会などを通じて研究成果を紹介し、郷土への愛着を深めるための事業を展開する。	1.55人	非常勤特別職 1.70人												①4,126人	6,000人	4,126人	
	H7～		12,989千円	臨時職員 0.00人												②4件	6,000人		
		R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	③855人	R2年度目標														
		1.12人	非常勤特別職 1.35人		6,000人														
		9,309千円	臨時職員 0.00人		6,000人														